

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立吹田東高等学校
取り組む課題	キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現）
評価指標	①希望進路実現率の向上。国公立、難関私立大、看護医療系等の進学実績の向上。 ②学校教育自己診断における該当項目の肯定率の向上。 ③授業アンケートにおける生徒の興味・関心の深化の向上。
計画名	主体的に考え行動する力を育てる学校づくりプロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>新しい校舎を活かした組織的な教育活動を通して、主体的に考え行動する力を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」を実現。授業形態の工夫や ICT 機器の効果的活用 (3) 一斉学習・個別学習・協働学習を組み合わせた授業形態の工夫を推進 高い志等をもてる学習支援・進路保障 進路について自ら目標を立て実現に向かう力を育成。大学との連携や外部資源の積極的な活用を行う。 豊かでたくましい人間性 (2) グローバル化・情報化が加速度的に進展する社会で通用する人材を育成するため、3年間の LHR や総合的な探究の時間、国際理解教育を推進しながら、SDGs の視点も踏まえた問題発見能力・解決能力や思考力・判断力・表現力を育成する。 人材育成 (3) 働き方改革の推進を行い、教職員同士の対話を深める時間や、生徒と向き合う時間を増やす。
事業目標	<p>本校の生徒は真面目で素直、大人の言うことをよく聞き、指示に従うことができることが強みである。一方、21世紀型スキルと言われる批判的思考力、意思決定力、コミュニケーション力に課題があり、強みを活かしつつ、これらの力を育てることが急務である。生徒の主体性を伸ばす取組みには、環境設備の充実に加えて、教員のスキルや時間的な余裕も必要となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「考える力やコミュニケーション力・発信力の伸長」 全教員が Chromebook を持ち、継続的な授業改善を実施する。すべての授業で、一斉・個別・協働を組み合わせた主体的・対話的な授業展開を行うことで生徒の批判的思考力・コミュニケーション力を伸ばす 「教員の創造性・対話力の育成と集合知の結集」 生徒が主体的に考え行動する力を育てるためには、教員の創造性や対話力の育成に加え、時間的な余裕も必要となる。業務改善を行うことで、教員のスキルアップのための研修体制を確立し、集合知を結集させる。 「主体性を伸ばす PBL プログラムの開発、実施」 上記①②を通してインタラクティブで機能的な授業を展開する。 併せて「答えのない問いを解決する力」や「一人ひとりが輝くリーダーシップ」が求められる時代において、大学教育では定着しつつある「問題解決型学習（PBL）」の本校版を開発、実施。生徒・教員共に主体的に考え行動する学校づくりを実践する。
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> Chromebook 17 台 移動式教卓 1 台 グループワーク用デスク 40 台

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスプロジェクター 1台 ・ ホワイトボード 1台
取組みの 主担・実施者	<p>主 担：校長・教頭・首席を中心に「GIGA SCHOOL 委員会」「総合探究委員会」「観点別学習評価委員会」の3つの委員会を関連付けながら進める。</p> <p>実施者：全教員</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員全員に Chromebook を配付し、職員会議のペーパーレス化・朝の職員連絡会の掲示板化を実現。全教員が PC を活用した授業を行い、オンライン上での課題のやり取りを行えるようにした。 ・ アクティブラーニング教室を整備し、GIGA SCHOOL 委員会の教員を中心に、1人1台端末を使用した個別最適な授業スタイルを推進。 ・ 教職員の創造性・対話力の向上のためのワークショップを開催し、スキルを向上させるとともに、ミドルリーダー育成を行う。 ・ 授業改善と教員討議を通して「吹田東高校生に必要な PBL プログラム」として「21 世紀型リーダーシップ研修」を甲南女子大学・関連会社と共同実施。
成果の検証方法 と評価指標	<ol style="list-style-type: none"> ① 国公立大学及び関関同立・現役延べ合格者数 35 名/320 名以上 (R1 入試：24 名/R2 入試：34 名) ② 学校教育自己診断（生徒）における授業満足度 70% (R2：68.1%) ③ 学校教育自己診断（教員）における「授業方法について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率を 80%、うち強い肯定を 20%以上 (R2：76.7%/11.7%) にする。 ④ 授業アンケートで「授業に興味関心を持つことができた」の平均値を 3.20 以上 (R1：3.10/R2：3.17) ⑤ 「主体的・対話的」な授業の実践率を 60%以上にする。
自己評価	<ol style="list-style-type: none"> ① 国公立大学及び関関同立・現役延べ合格者数 32 名/320 名 (R1 入試：24 名/R2 入試：34 名) …………… (△) ② 学校教育自己診断（生徒）における授業満足度 82.7% (R1：60.7%/R2：68.6%) …………… (◎) ③ 学校教育自己診断（教員）における「授業方法について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率 85.5%、うち強い肯定を 21.8% (R1：61.1%うち強い肯定 11.1%/R2：76.7%うち強い肯定 11.7%) …………… (◎) ④ 授業アンケートで「授業に興味関心を持つことができた」の平均値 3.21 (R1：3.10/R2：3.17) …………… (○) ⑤ 「主体的・対話的」な授業の実践率…………… (△) 外部コンサルタントと連携した教員の対話力向上の取組みにより、ミドルリーダーが育成されており、具体的にグループワークや双方向のやり取り、調べ学習などを行っている教員数は6割を越えているが、こういった授業の総数は6割には満たなかった。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内公開授業を促進し、生徒と教員が ICT を活用することにより、双方向型の対話を通して生徒が主体的に学び表現できる授業実践を全教科で一般化させる。 ・ 1年生の生徒全員に「21 世紀型リーダーシップ研修」を甲南女子大学・関連会社と共同実施。 ・ 上記講座に教員も参加し、「批判的思考力を鍛え、対話を通して能動的に学び、発表する能力」を育成する指導法について学び、授業で実践する。 ・ 本校の取組みと成果を府立学校に向けて報告会等で発信する。

3. 事業費報告

今年度事業費総額	3,052,383	円
----------	------------------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
1 報償費	1	生徒向けPBL開発支援料	¥74,500	4	¥298,000
	2				
	3				
					小計
2 旅費	1				
	2				
	3				
					小計
3 消耗需用費	1	Chrome book	¥44,550	17	¥757,350
	2	移動式教卓	¥34,540	1	¥34,540
	3	グループワーク用デスク	¥22,880	40	¥915,200
	4	ホワイトボード	¥23,413	1	¥23,413
					小計
4 維持需用費	1				
	2				
	3				
					小計
5 役務費	1				
	2				
	3				
					小計
6 委託料	1	教員の創造性・対話力育成支援	¥861,300	1	¥861,300
	2				
	3				
					小計
7 使用料 及び賃借料	1				
	2				
	3				
					小計
8 備品購入費	1	ビジネスプロジェクター	¥162,580	1	¥162,580
	2				
	3				
					小計
9 工事請負費	1				
	2				
	3				
					小計
10 負担金・補助 及び交付金	1				
	2				
	3				
					小計
				合計	¥3,052,383